

共生・公正・創造



東日本タイムズ号外

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~JRTU-HWU/>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NIT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

【シリーズ20】

“総団結”が至難な現状と大いに関係ある松崎明編著『仇花と崇高な心』の序辞

松崎氏の“激怒”で知られる「東京問題」に端を発したJR東労組の内部確執は、松崎・本部派が強引な手法で執行部を奪取した「千葉地本」が04年春発行した『情報第47号』の中において、「去る3月8日～9日に長野県上山田で『JRを改革する会』の総会が開催され、200名が参加した」「会の代表者には新潟地本の斉藤委員長が就任。副代表には小林（注、小林克也前千葉地本委員長）、本間（注、本間雄治氏＝横浜地本出身者で、「大量辞任した本部中執8人組」の一人）が就任。また、長野地本の峰田委員長も役員に就任した」と報告されているように、新『嶋田たちのホームページ』と『猛獣王国』ホームページの二本立てによる嶋田たち派の反攻体制の整備・充実化と併せて、「総団結」への途は益々遠のいていくように見える。

それというのも、わが国の「普通の労働組合」の世界では、内部の異論・反対を抑えてきた執行部が180度の方針転換を行わざるを得なくなった場合には、必ず総辞職し反対派に執行部を譲るか、一般組合員に信を問うかすることで、責任の所在を明確にするのが常識であるのに、松崎・本部派がその常識を覆す行動を執り続けているからである。

先の「嶋田たちのホームページ」の中でも、「責任は？ 謝罪は？ 頼被りはないよ！」、「それは世の中通用しないぞ！」、「数々の規約違反、デタラメな組織運営に対する一片の謝罪もなければ、責任をとろうともしない」、「社会通念的にいえば“非常識”そのもの」、「この一連の事態の中では組合員が全く存在していない」、「本当に今“総団結”が必要と考えているとしたら、『指導部』がまず組合員に対し謝罪と責任を明確にすることが、一切の前提である」などなど、激しいながら至極もったもな松崎・本部派批判が行われている。

では、松崎氏と東労組指導部がなぜ「謝罪と責任」を明確にしない、できないのか。それはおそらく「そもそもの発端が松崎氏（の指導者としての“質”）にある」、「責任を問われ、謝罪しなければならぬ最大の人物は、松崎氏その人」だからであろう。スターリン、毛沢東、スモール金日成の「首領様」などに例外なく見られる、独裁・共産主義者とその取り巻きたちの行動パターンの共通性と、その周辺に漂う“無謬神話”は、愚かしくもありおぞましいが、思えば何よりも「罪深い」ものである。

なお、ここでどうしても指摘しておかなければならないのは、この東労組内部確執問題は、「一般の労働組合役員による派閥抗争」といった次元のものでは決してなく、「JR革マル組織内部の左派（松崎・本部派）対右派（嶋田たち派）の主導権争い」だ、という点にその本質と問題性がある、ということである。

その意味で、目下、JR革マル左右両派が舞台裏でどんな駆け引きと攻防を続けているのか、それに党革マル派がどう絡んできているのか、興味尽きないものがある。

さて、インターネット掲示板の「JR総連・東労組を鋭く語ろう！」スレッドの中に、秀逸な出来栄えのものを一つ見つけ、思わず噴き出してしまった。いわば「息抜き」用として、それを最後に紹介する。松崎氏及びJR東日本革マル問題の本質を「ズバリと言い得て妙！」、まさしく“座布団一枚”もの、と筆者には思える。

47 : 名無しでGO! : 04/05/28 13:42 ID:N1QIBi6/

「あの～、総理と同じジュースを飲んでいいの？」

「いいんだよ。日本とはそう言う国だ。」

「あの～、松崎前顧問と同じジュース飲んでいいの？」

「ダメに決まってるだろ！東労組とはそう言う組合だ！」

民主化の声・声・声・・・

2005.11.18

その20

東労組への革マル浸透問題、これだけの理由！

革マル浸透問題が、国会で何度も指摘されました！

金重警察庁警備局長（当時）...「警察としては、これまでの警察活動を通じてJR総連・東労組に革マル派が相当浸透していると見ています（2000.11.7参議院交通情報通信委員会）」

高村法務大臣（当時）...「革マル派が重要な交通運輸機関であるJR東日本の労働組合に、その勢力を浸透させていることは憂慮すべき問題である（2001.3.2衆議院予算委員会）」

漆間警察庁警備局長（当時）...「警察としましては、JR総連・東労組において影響力を行使でき得る立場に革マル派系の労働者が相当浸透しているところで見えています（2001.5.25衆議院国土交通委員会）」

扇国土交通大臣（当時）...「JR東労組の作成したビラについては、あまりにも国会の審議を冒瀆するものである。残念なのは、革マル派の1000名程度がJR関係者である（2001.5.25衆議院国土交通委員会）」

漆間警察庁警備局長（当時）...「革マル派の労働者組織には産別毎に労働者委員会を設け、その中にJR労組出身者からなるトラジャと呼ばれる組織があり、その指導のもとマンガローブと呼ばれる組織の存在が確認されている（2001.6.6参議院国土交通委員会）」

奥村警察庁警備局長（当時）...「JR総連・東労組に対して、革マル派が相当浸透しているという見解はいささかも変更がない（2002.11.6衆議院内閣委員会）」

奥村警察庁警備局長（当時）...「革マル派とは日本で暴力革命を究極の目的としている組織であり、いまその党派性を隠して基幹産業の労働組合に浸透している。JR東労組への浸透もその一環である（2002.12.4衆議院内閣委員会）」

小泉内閣総理大臣...「左翼過激派革マル派がJR総連やJR東労組に深く浸透している（2003.3.18質問主意書に対する政府答弁書）」

労働運動に過激派（革マル派）はいらない！

民主化の声・声・声・・・

（続く）